

## 第6回 生駒市史編さん委員会会議記録（要旨）

- 1 日時 令和7年3月25日（火）13：30～15：00
- 2 場所 生駒市図書会館第2研修室
- 3 出欠（敬称略）  
（理事者）小紫市長、領家副市長  
（参加者）谷山正道、吉川真司、天野忠幸、高木博志、神田雅章、山本昇、原井葉子、坂谷操  
（事務局）小紫市長、領家副市長、西野図書館長、伊田市史編さん係長、錦市史編さん係主査、井川生涯学習課長、八重市史編さん係員、西野市史編さん係員、池田市史編さん係員
- 4 会議の公開・非公開 公開
- 5 傍聴者 なし
- 6 挨拶 市長・副市長・谷山委員長
- 7 委員紹介
- 8 議事内容  
（1）令和6年度各分科会活動報告（活動実績一覧参照）

### 古代史

- ・古代史は文献から見たもの、考古から見たものがあり、それぞれ史料の性質が違うが生駒市の場合は両方から見たもので一緒にしている。
- ・考古は、神野さんには市内窯跡の遺物、遺跡・発掘調査情報集成・考察、小栗さんには須恵器以外の弥生時代から続く市内の遺跡・遺物・発掘調査情報の集成、吉川委員は生駒市に関わる行基、神武東征等文献資料を集成してきた。
- ・令和7年度に本編・史料編が出るので6年度はサポートをかけた。  
史料編及び考古学の遺物整理もかなり進んでいるので、予定通り7月には間に合う。  
本編についても、（部会の）三人で本編の組立て、枚数、体裁等再確認し、締切に間に合うよう頑張る。

### 中世史

- 早くからアルバイトを雇い、集成が終了しつつある。史料は少し多いので精査が必要となる。本編を書き始めると史料の不足が明確になるのでページが増える状況となる。史料編は間に合いそうだが、問題は本編。5月上旬の締切に間に合わせるよう頑張りたい。
- ・生駒執筆員：市内の文献資料を基に南北朝の統一までとなる。
  - ・天野執筆員：南北朝～豊臣秀長まで（令和8年の大河ドラマの関係で史料が増えている）
  
  - ・服部執筆員：市内の地元史料に特化しての執筆をしていただく。
  - ・前園執筆員：考古担当・竹林寺の報告書が出たところなので書くことが多くボリュームが大きくなるかも知れない。
  - ・新谷執筆員：文化資源として関心が高い城を担当、高山・北田原・菜畑城を担当し執筆。京田辺でも担当されていて、市内だけでなく南山城や北河内との繋がり、広い視点をもって執筆する。

## 近世史

- ・平成8年から文書調査を進めており寺社以外は終わっているが、残念ながら調査に応じてもらえていない家もある。
- ・次の史料集3は松平家関連、7月予定、岩城委員・谷山委員長で担当。しっかり入稿に間に合わせるよう努めたい。本編は来年5月締切で、メンバー総出で頑張って進めていきたい。

## 近現代史

- ・史料集4でも扱ったが、近代は史料が多く現存している。調査と並行して研究を進めている。普段は10年調査して刊行という流れで動いているが、今回のように4年での発刊は短い、刊行計画に合わせて進めているところである。どの自治体もあまり新聞を悉皆的に調査していないが、今回は丁寧に行っている。通年新聞記事検索を行っているから、市史の事業が終了しても市の財産になるかと考えている。
- ・奈良県庁文書をすべて確認した。生駒市は市の行政文書の残りがいい。明治～大正まで三か村（北倭、北生駒、南生駒）分がしっかり残っているので特筆できるものである。
- ・この1年での話題は、大正3年以降の大軌開通以降後、北生駒が都市となって北倭を凌駕し、市の中心が北から移った。もう一つは「生駒市民」という感覚はどこから生まれたのか。1970年代以降かもしれない。新住民・原住民の境目など、アイデンティティをどこに持ってくるか、生駒は女性の議員や職員が多い。このあたりを現代ではピックアップできればと思う。

## 文化遺産・自然

- ・建築：奈文研で実施。ほぼ基礎調査終了
- ・民俗：定期的に調査や会議を行い順調に進めている。地域ごとに分担している。
- ・石造物：基礎調査は終わっているのでこれからの確認調査を期待している。
- ・文学：検索のほか手元の史料で研究している。
- ・自然：分野ごとで調査を進めている。
- ・美術工芸：7か寺調査し、残り5件で終了。これまで報告書は「生駒市の仏像」の北・中地区は出ているが、本刊行一覧には出していないが、9年度に南地区編を刊行できればと思っている。→事務局：生涯学習課のほうで「生駒市の仏像」の調査報告として刊行する予定である。「石造遺物」も在庫も切れ、改訂版を出す予定。
- ・寺院・神社史は美術工芸調査と同時に行っている。個人所蔵のもの取り扱いをどこまでやるか検討する。年度明けに分科会を行い各部門の進捗の確認を行う予定。

## (2) 『生駒市史第1巻 生駒の自然地理・古代・中世』の作成について（資料3）

### （事務局説明）

- ・体裁、構成等は第3回市史編さん委員会で決定
- ・あとがきについて  
第1巻：吉川委員・天野委員、第2巻：谷山委員長、第3巻：高木委員、第4巻：神田委員に決定

- ・入稿期限：令和7年5月10日
- ・ハードカバー（帯）：当初予定にはなかったが、生駒市出身作家の森見登美彦さんに執筆依頼し承諾いただくことができた。
- ・第1篇：自然地理 辰己担当、第2編：古代史分科会担当、第3編：中世史分科会担当
- ・5月頃に入稿期限。納品：令和8年3月予定
- ・情報発信：ホームページや広報でPR
- ・歴史文化基金の活用：一部活用する。令和8年度に歳入予算を計上する。
- ・名簿変更説明（文学：穴井執筆員、自然：佐久間執筆員 加入）
- ・全国流通を検討したが、他市の状況を確認したところ販売委託料がかかるものの売上が非常に少なく、流通は行わない。

天野委員：和泉市史はいくらか→2000円（税別 540ページ）

山本委員：売価はこれから議論が必要となる。

天野委員：学術誌「日本史研究」か吉川弘文館「日本歴史」に広告を出すと全国に届くかも。

半ページの枠でも1か月だけ広告を出すなどすれば全国の研究者に届く。

高木委員：最初の巻をうまく周知すると続巻にもつながりやすい。

谷山委員：イベントでのアンケートでは安い値段を選びがちになるので市の財政状況も見て売価は考えてもらえれば。

原井委員：どのタイミングで価格を決めていくのか。

事務局：入札で全体額が決まるので、そこから単価を出し、市民の声との開き、歴史文化基金からの補填額とで価格を決定する。

委員長：見出しは決まっているか。

吉川委員：読みやすくするようなスタイルで考えている。

原井委員：販売は令和8年度からとなり、価格は委員会ではなく事務局で決めるのか。令和8年度歳入で計上する予定か。

事務局：その通り。入札額の単価を勘案して設定する。歴史文化基金でも補填する。

山本委員：他市の販売状況も確認して数字を出しておくことが必要。しっかり説明できるように調査して欲しい。

事務局：なるべく安価にしたい。頒布は協力者、関係機関、市図書館・室5館、生涯学習課で約250部、残りを販売、市内書店、全国流通は費用対効果が乏しく諦める。あまり安くすると今後増刷して売りにくい。

原価は1万円程度要する、適当な価格をどこに持っていくか。大事なところで議論していきたい。

原井委員：どれぐらいの規模でどのぐらいの実績があるか確認してほしい。

天野委員：和泉市はウクライナ以前の作成であって安価であったが、以降は参考にならない程、価格の高騰が著しいので、この3～4年で刊行されたところに聞くのがよい。

### (3) 史料集の作成について

事務局：資料4説明

谷山委員：史料集3は天理図書館の史料からセレクト。天理図書館に矢野家の陣屋日誌がた

くさんあるので9集以降の史料集、または仏像と同様に報告書として出したい。

事務局：近代史で滝寺の岡村閑翁の友月齋日記なども史料集として出したいという声を聴いている。どのような流れで刊行するか整理させてもらって次の委員会に提示できればと思う。

谷山委員：本編の最終巻が出るまでには翻刻を終えておく必要があるので進めておいてほしい。岡村閑翁の友月齋日記についても同様に。史料集として出さずとも生涯学習課で報告書として出すなどすべきと思う。

高木委員：新聞資料については1冊ではすまないと思うので、それが市の財産になる。複数冊を考えておいたほうがよい。現代史では地図集という形をとらずに戦後の史料集として進めることとなった。

事務局：直近の分科会で地図だけでなく文献資料も取り上げることとなった。新聞資料は複数冊になるとのことなので、計画の流れから外すか史料の整理が必要。検討する。

吉川委員：小字の地図はどうか。小字地図はなるべくサイズが大きいほうがよいので、折りたたんで発刊も考えられるが、それだとこの8集で取り扱うのは難しいかもしれない。ただ絶対に何かの形で発刊できた方がよい。

事務局：奈良県の遺跡地図はWEBで高精細なものを公開しているが、こちらもどれぐらいの精度で扱うとよいか整理して相談させてもらえればと考える。

#### 4 イベントの開催について（活動報告）

事務局：令和7年度は座学で小規模な特論講座を2題ほど。これまで登壇されていない先生に講座をお願いしたい。1巻が出来上がり以降、発刊記念講演会ができればと考えている。今後、実施形態をご相談したい。

谷山委員：活動報告の活動名「生駒の幕末維新」に修正を。市史の執筆者が40人以上いるので、ミュージアムのイベントとも連携し、また、それぞれの講演会で分野も限られていたので、できるだけ多くの執筆者に講座の機会を持ってもらって欲しい。

#### 5 その他

事務局：歴史文化基金（平成22年から運用）の積立てを行っており、本編1巻目から基金を充当する。今後も基金に積み立てるため、市史のPRグッズ（飛行塔等のクリアファイルやブックカバー等）の製作費を令和7年度予算に計上している。図案のアイデア等で委員の皆様のお知恵を拝借したい。またデザインや販売方法などご相談できればと考えている。

高木委員：近代現代史のボリュームが増えてしまうのではないかという意見があったが、頁が増えてもおそらく100頁ほどの増となるので1冊で収まる見込みで意見が一致した。

坂谷委員：市史編さん係だけにとどまらず生涯学習課とも連携していろんな世代の人たちに講演を聴いて欲しい。広くその場を作っていきたい。また基金のPRも引き続きおこなっていく。市内企業の募金活動の機会を戴いている。

山本委員：基金の収集が難しいので、何かいいやり方がないかなどできるだけ市民に関心を

持ってもらえるよう考えていきたい。委員の皆様にもご協力をお願いしたい。

原井委員：大きなプロジェクト。陣屋史料の話でもあったがページの制約はあるが、集まった史料は貴重なものなので載せられなかった史料をどう活用していくかを同時に考える必要がある。

また子どもたちにも分かりやすいものをとという話が以前にもあったのでそれについても考えていきたい。

谷山委員：それについては市史の最後の刊行が近づいてきたら検討していきたい。

吉川委員：史料集7について中世のページが多いと聞いており、近代もページの増が許されるのであれば、中世のページ増も許してもらえないか。

事務局：入札で落ちる可能性がある。

天野委員：新谷さん担当の所収分が届いたらページ数が固まるのでそれを見て検討させてもらいたい。

以上